

症例報告

ICI 地固め療法中に再燃した EGFR 陽性肺多形癌に ICI 再投与が
長期奏効した 1 例

森永有美^{a,b}、池澤靖元^{a,b}、佐藤祐麻^b、西村弘基^{a,b}、外丸詩野^c、
河井康孝^a

a 王子総合病院 呼吸器内科

b 北海道大学病院 呼吸器内科

c 北海道大学病院 病理部/病理診断科

要旨

症例は 54 歳女性．健診異常影の精査の結果，肺多形癌 cT4N0M0Stage IIIA，EGFR 遺伝子変異陽性，PD-L1 発現>75% と診断した．化学放射線療法後に維持療法としてデュルバルマブを 7 コース施行時点で再発し，殺細胞性抗がん剤，EGFR-TKI での治療後に，4 次治療としてペムブロリズマブを開始し，腫瘍の著明な縮小を認め 2 年以上にわたり奏効を維持している．EGFR 陽性の肺多形癌の症例において PD-L1 発現状況や治療経過なども踏まえ，ICI 再投与も検討の余地があると考えられた．

キーワード：多形癌，PD-L1 高発現，EGFR 遺伝子変異，ペムブ
ロリズマブ

Keyword: Pleomorphic carcinoma, High expression of PD-L1,
Epidermal growth factor receptor gene mutation,
Pembrolizumab

短縮タイトル： ICI 再投与が奏効した EGFR 陽性肺多形癌の 1
例